

■今月の特選句

2022年5月



意地を見せ腸見せぬ焼栄螺

小林英昭

腸は「はらわた」と読む。栄螺の蓋を開けると身があってその奥に肝がある。うまいが切れやすく取りにくい。腸に本心という意味もかけてある。



しゃぼん玉かがくの色を輝かす

山本 賜

シャボン玉の表面が虹色に見えるのは、膜の外側と内側で反射する光の「光の干渉」という現象のため。「かがくの色」は誰にもできない詩の表現。



春昼や検温銃が通せんぼ

壽命秀次

ピストル型の検温器は、オデコで測るからギクリとする。看護師さんに「前髪をあげろ」「帽子をとれ」と言われると、それだけで血圧が上がる。

2022年5月

■今月の特選句



重力の束が丸見え藤の花

花岡直樹

「重力の束」ときたか。なるほど巧い表現である。しかも「丸見え」とは嬉しいね。若干猥褻な用語だが、上品な藤房との組み合わせがいいね。



専制のリーダーをらぬ蝌蚪の国

峰崎成規

目高の学校も蝌蚪の国も、平和で権利も守られ、みんなが助け合って生きている。専制君主など存在しない。人間も見習わにやならんぞ。



ポリバケツ蹴っ飛ばしたる春一番

和田のり子

とかく俳人は春一番の元気を褒めたりするが如何なものか。奴は時に狂暴だ。「蹴っ飛ばしたる」の俗ながら率直な表現に特徴がよく出ている。